

オールウェーブのイタズラ?

話がチト突飛であるから全く荒唐無形の作り話と思われては大変，事の起った地点を明らかにしておかねばならない。所は一寸遠いが北海道山越郡八雲町の警察官舎 A 部長さん(当時)のお宅であったことであるが，人名だけは差障りがあるては困るから A 氏としておく。

さてこの A 警部補(現在)氏のお宅で一献傾けていた時，食膳に出された鶏料理を A 氏も奥さんもニヤニヤと意味あり気な笑顔。丁度折良く帰宅した A 氏の長男君(28 才)もすぐ同席されたが，食卓に眼をやるなり

「ホーいよいよやったね」

とこれ又ニヤニヤ。鶏は私一人に出された訳のものではないから，警察勤めの方が毒を入れて出した訳でもあるまいがと思いながらも……一寸気持が悪い。私の顔色を見てとった長男君

「いやお気を悪くしないで下さい，実は貴男なら判って頂けると思うんですが，この鶏には一寸愉快な思出があるんです」

と話されたのがこの一件である。

明けても暮れても空襲空襲警報警報で思出すのもうらさびしきあの頃，何も彼も欠乏のドン底で，我々の愛好するラジオ界にまでこれが波及して，ヤレ経済受信機ハタ又国策順応受信機等々と名称だけは立派だが，吹けば飛ぶ様なセットが横行していた時代，昭和 20 年 7 月下旬といえば，北海道の南部地方は相当むし暑い気節である。この頃はスーパー，オールウェーブ等とんでもない話で，日本以外の電波は聴いてはならんと，キツイお達しであったことは御承知の通りだ。

いかんといわれると見たい聞き度たいが人の常，A 氏の長男君も又その一人でいかけい父君の職掌柄から，父にまで内密で，2 バンドの 5 球スーパーを竊ひそかに可愛がっていた。

当時有名なアメリカン・ボイスに聴耳立てたり，状態の良い日には遠くロンドンからのニッポンゴも飛び込んで来る。長男君の熱中していたのも無理はない。

この愛機の置かれてあるのは同家の押入の中，毎夜毎夜長男君は押入の奥深く……といっても三尺よりない訳だが……もぐり込んで，日本降伏近しとかポツタム宣言にレシーバーを同調させていた。近所隣の手前から SP(スピーカー)を使うこと等思いも及ばないから，文字通り LS(受話器)をウヤウヤしく頭に頂いて，ムシムシする押入の中で御苦労極まる日課……夜課?……を繰り返していた訳。

或夜 A 君は例の如く押入の中に座り込んで愛機のスイッチを入れると，ピーピーピーの聴き馴れたビートの中に大変調子の変ったビートが入る。聴かんとす

れば止み、止んでは又聴える。怪電波……A君は本当にそう思ったそうだ……だが不思議なことでLSを頭から除してもやっぱり聴える。セットの電源を切っても……A君は余り熱中し過ぎて耳がおかしくなったんだろう……位に思って、薄暗い押入の中から(押入の中には6Vの豆球だけというのだから余り明くはない訳ですナ)ゴソゴソはい出ようとしてフト見ると、意外も意外膝の上にヒヨコが一羽、オヤッと良く見れば正に本物のヒヨコである。今のはヒヨコの鳴き声か?!とようやく我に返った……。ヒヨコと判明する迄は全くビートに聴えたんだから面白いですよ、とA君は語つていた……。

このヒヨコ嬢(彼氏か判らないが)も忽然として湧き出た訳のものでも無く、要はS君がセットを置いた押入の一隅には同家で飼っている鶏の生んだ卵を浅いボール箱の中に入れてあった……約10箇程……。S君自身は押入の中は単なるガラクタばかりと思っていたから、適当に仕末して程良い高さの台の上に愛機をドッカと置いたのだが、卵の箱の上に半分乗り上っていた。セットの暖か味で程良く孵化されて、かくはヒヨコの誕生とはなったものらしい。

お陰で筆者も美味しい鶏料理で一杯御馳走頂けた次第である。ヒヨコを孵化させた熱源は、ラジオの熱か、A君の熱か知る由もないが、A家の人々は

「これが鶏のお母さんです」
と今は茶箪笥の上に納った件のセットを見上げていた……。

(TS老談)

このPDFは、
『無線と実験』1950年2月号
をもとに作成した。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを
ラジオ温故知新

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>

に収録してある。参考にしてほしい。